

拜復

二十七日御催しの會合は頗る重大なる意義を識し出席致度候も
二十六、七兩日に亘り丹波長田野にて中學校生徒野外演習を舉
行候事に相成り居り乍遺憾出席致し兼ね候間御諒承下され度候
二十五日

京都

杉村勇治 郎
(後備陸軍少將)

今皇國日本の現勢を見るに遽二無二世界に向つて躍進また躍進を
續けざるを得ない地位に置かれてゐる、即ち列強の重壓頗る急なる
ものあり、内國民生活の疲弊困憊まさに極度に達し諸制度改革の發
火頻々として打擧げらる有様にして到底現狀を以てしては國民の承
服を得難きに至つたのである

殊に我國農山漁村は國軍を構成する青年の產地にして國防上極め
て重要な地位に置かれてゐるに拘らずその將兵が後顧の憂を甚しく
せねばならぬ疲弊状態にあることは躍進日本の國防の上から誠に痛
心に堪へない、惟ふに皇國農民同盟は國防的見地から農村の更生
のために凡ゆる苦闘を續けてゐるものと確信するのであつて國を誤
る現在の凡ゆる諸機構に對しては斷乎として斧鉞を下し之れが是正
革新に邁進するは云ふまでもない

曩に我陸軍當局は國防の本義とその強化を提唱して國民の進むべ
き躍進の途を明示してゐるが希くば本同盟に於ても眞子の軍民一致